CoorsTek

環境・安全衛生報告書 2020

Environmental, Health, and Safety Report

CoorsTek KK Group

Environmental, Health, and Safety Report 2020

Contents

経営方針 P02

企業メッセージ P03

環境報告

■安全衛生・環境方針 P04
■環境管理体制 P05
■環境活動の目標と実績 P06
■環境負荷の状況 P08
■地球温暖化防止 P09
■廃棄物管理 P10
■化学物質管理 P11
■グリーン調達 P12
■環境への取組みの歴史 P13

安全衛生報告

■安全衛生管理体制 P15
■労働災害発生状況 P15
■安全衛生活動の目標と実績 P16
■安全衛生活動 P16

地域との関わり

■地域社会への責任 P19
■地域社会との協調 P19

編集方針

2003年に環境報告書を発刊以来、今回で18回目の発行になります。本レポートは、クアーズテック株式会社グループが果たすべき社会的責任と、社会課題解決のために行っている取組みについて、環境と安全衛生活動を中心に、お客様、従業員、地域住民の方々など多くの皆様にわかりやすくお伝えすることを目的に発行しています。

対象範囲

本報告書は、以下の事業所および関係会社を対象にしています。

クアーズテック株式会社

■本社　東京都品川区大崎二丁目11番1号（大崎ウィズタワー）
■小国事業所　山形県西置賜郡小国町大字小国町378
■秦野事業所　神奈川県秦野市曽屋30
■刈谷事業所　愛知県刈谷市小垣江町南藤1

連結子会社

■クアーズテック徳山株式会社
山口県周南市江口2-1-32
■クアーズテック長崎株式会社
長崎県東彼杵郡川棚町百津郷296
■クアーズテック販売株式会社
東京都品川区大崎二丁目11番1号（大崎ウィズタワー）

（備考）

・上記3事業所（本社除く）と連結子会社2社（クアーズテック販売除く）を合わせて「事業場」と表記します。
・環境報告に関するデータには、本社、クアーズテック販売は含まれません。
・本報告書では、親会社であるCoorsTek,Inc.のグループ会社を総称してクアーズテックグループと表記しています。
・本報告書では、クアーズテック株式会社および上記の連結子会社をクアーズテック株式会社グループと表記しています。
・会社概要は弊社HPをご参照ください。
http://www.coorstek.co.jp/jpn/corporate/overview.html

対象期間

2019年度（2019年1月1日から2019年12月31日まで）の活動結果を対象とし、一部それ以外の内容を含みます。

発行時期

前回：2019 年 3 月　　次回：2021 年 4 月発行予定

参考にしたガイドライン

環境省　『環境会計ガイドライン2005年度版』

Business policy

The CoorsTek Way 経営方針

The CoorsTek Way

ビジョン｜素晴らしさをもっと実感できる世界に

より良い今日のために
- 革新の歴史から**新たな発想を得ます**
- 自らの行動に**誇りを持ちます**
- お客様、同僚、家族、コミュニティ、そして世界に卓越した**価値を提供します**
- 自らが関わるコミュニティの人々の生活をより良くする、**最先端の解決策を提案します**

ともに発展するために
- 一人ひとりの持って生まれた価値や尊厳を**尊重します**
- 責任、リスク、機会、報賞を**分かち合います**
- お客様のもっとも困難な問題を解決するために、**ともに力を尽くします**
- 一貫性、誠意、敬意を持って**行動します**

より良い明日のために
- 限界を超えて**挑戦します**
- 未来の挑戦に向けて**進化します**
- 地球規模で**考え**、地域に根ざして**行動します**
- 長期的な視点に立ちつつ、短期的な成果を**実現します**

クアーズテック株式会社グループの経営方針

1. **お客様第一**
   お客様の満足を第一とし、ユニークな着眼点とダイナミックな発想により価値ある製品とサービスを提供します。

2. **企業価値の向上**
   たゆみない経営変革と技術革新により企業価値を高め、クアーズテックグループとつながりを持つすべての人々の信頼と期待に応えます。

3. **社会への貢献**
   地球環境保護と人の安全への配慮に最優先で取組み、良き企業市民として地域社会および地球社会との共生を図りながら、広く社会の発展に貢献します。

4. **公正な企業活動**
   企業の社会的責任を自覚し、国内外の法令や社会規範に基づいたルールを順守し、公正で誠実な企業活動を行います。

5. **個の尊重**
   社員の自主性・創造性を尊重し、自己成長と進化を追求する公平で自由闊達な企業風土を醸成します。

Corporate Message

企業メッセージ

素晴らしさをもっと実感できる世界に

クアーズテックグループは、100年以上の歴史をもつグローバルエンジニアリングセラミックスメーカーとして、「素晴らしさをもっと実感できる世界に」をビジョンとして、幅広い事業領域において、お客様や市場の直接的な要望を基礎にした開発により、つねにより良い製品を提供し続けていきます。

同時に当社は、経営方針の一つに「地球環境保護と人の安全への配慮に最優先で取り組む」ことを掲げ、「環境保全」や「安全衛生」が事業を続けていく上で最も重要な要素の一つであると位置づけて、さまざまな活動を通じて社会の発展に貢献していきます。

環境面においては、資源の有効活用に積極的に取り組み、2019年は2年連続、前年比で総排出量原単位を大幅に改善しました。また、化学物質の削減も前年比原単位で大幅に改善しています。2020年も引き続き事業活動に伴う環境負荷低減のため、資源の有効活用、化学物質の削減、そして地球温暖化防止への取組みを推進してまいります。

安全衛生面では、2018年に開始したエルゴノミクス（人間工学）※1の評価結果に基づき、2019年は事業場全体で、ストレスの大きい作業を優先して約10%改善しました。2020年も引き続き改善を進め、科学技術の面からもより働きやすい職場環境の実現を目指してまいります。また、危険予知（KY）の取り組みとして、クアーズテックグループ共通の手法であるForesight 4 Safety※2をさらに進化・定着させて、システムとともに人づくりの強化で安全文化の醸成に取り組んでまいります。

私たちは、これからも、事業を成長させて企業価値を向上させるとともに、ステークホルダーのみなさまに、よりご満足いただける企業となるよう諸活動を推進してまいりますので、みなさまの変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

クアーズテック株式会社

※1 エルゴノミクス：人間工学。身体への負担を小さくし、疾病が起こりにくくなるように機械設計や作業方法を最適化すること。

※2 Foresight 4 Safety：作業の前に考える 4 つの項目。
（何をしようとしていますか、どんな危険が潜んでいますか、あなたならどうしますか、誰に伝えますか）

Environmental Report

環境報告

安全衛生・環境方針

安全で環境に配慮した事業運営を行うには、惜しみなく努力する心構えと、先取りして手を打つことが求められます。CoorsTek は、まず行動を起こすことこそが、労災や環境汚染事故を防ぐ鍵であると信じています。

A（ANTICIPATE：危険予知） 潜在的な危険を予知し、災害や事故を防ぐ対策を取ります。
C（COMMIT：約束） 自分自身と、ともに働く従業員、環境を大切にします。
T（THINK：学習） けが、事故、病気の原因を知り、それから逃れるすべを学びます。
I（INITIATE：開始） 継続的なプロセス改善、プログラム改善を行います。
O（OWN IT!：責任を持つ） けが、病気、環境汚染の防止は、私たちに課せられた責任です。
N（NETWORK：ネットワーク） 従業員どうしで最良の事例を共有し、法令を守るだけでなく、仕事の成果も高めるようにします。

環境活動

クアーズテック株式会社グループでは、環境保全への取組みを経営の最重要課題の一つとして位置づけ、1989 年より「グループ環境管理規程」を制定し、自主的かつ継続的な環境保全活動に積極的に取組んでいます。

クアーズテック株式会社グループ環境活動項目

クアーズテック株式会社グループは、素材・技術・資産の結合により新たな価値を創造し、かかわりのあるすべての人々と豊かな未来を共有するマテリアルカンパニーとして、経営理念に基づき“かけがえのない地球環境”のために、以下のとおり環境保全活動を推進します。

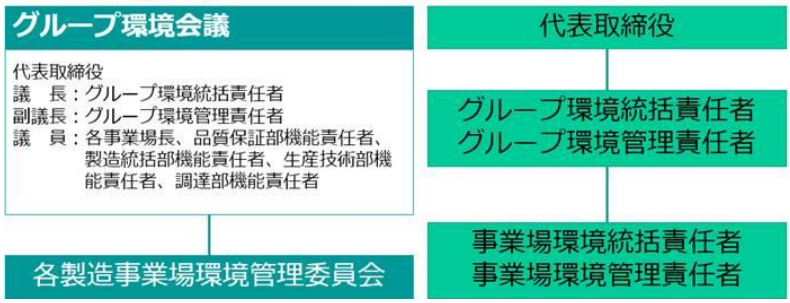
（1） 環境保全への取組みを、経営の最重要課題の一つとして位置づけます。
（2） 環境保全に関する法令、クアーズテック株式会社グループが同意したその他の要求事項および自主基準を順守します。
（3） 事業活動にかかわる環境側面について、継続的な改善を行い環境汚染の予防に努めます。
（4） グループ環境自主行動計画を設定し、地球温暖化防止のための CO_2 排出削減、資源の有効活用などによるゼロエミッションおよび規制化学物質の排出削減に努めます。
（5） グリーン調達を推進し、環境負荷の小さい原材料の購入に努めます。
（6） 優れた環境技術や環境配慮型製品の開発・提供、地域・社会との協調連帯および環境保全活動を通じて、社会に貢献します。

環境管理体制

環境管理体制

クアーズテック株式会社グループでは、「グループ環境会議」を環境管理に関する最高の審議・決定機関とした一元的な管理運営体制を構築しています。
また、事業場すべてにおいてISO14001の要求事項に準拠した環境マネジメントシステムを運用してます。

◆環境管理体制（体系図）



◆ISO14001 認証取得状況（2020 年 3 月末日現在）

事業所	初回取得年月	認証機関
小国事業所	1998 年 2 月	Intertek Certification Japan LTD.
秦野事業所	1998 年 3 月	Intertek Certification Japan LTD.
刈谷事業所	2000 年 4 月※1	（一般財団法人）日本品質保証機構
クアーズテック徳山㈱	1998 年 3 月	（一般財団法人）日本品質保証機構
クアーズテック長崎㈱	2000 年12 月※2	Intertek Certification Japan LTD.

※1 刈谷事業所は 2009 年 4 月に認証を返上しましたが、2017 年 11 月に再度認証を受けています。
※2 クアーズテック長崎㈱は 2009 年 12 月に認証を返上しましたが、2016 年 3 月に再度認証を受けています。

安全衛生・環境監査

（社内監査）

クアーズテック株式会社グループでは、各事業場に対してグループ環境統括責任者、安全衛生・環境担当による社内監査を行っています。社内監査では、安全衛生・環境活動の実施状況、関連法令、会社の自主基準などの順守状況を確認し、評価を行っています。

（小国事業所）

（秦野事業所）

（刈谷事業所）

（クアーズテック徳山）

（クアーズテック長崎）

環境教育

クアーズテック株式会社グループでは、従業員の環境保全への理解と自覚を深め、必要な力量の向上を図るために、階層、職能別に環境教育を継続的に実施しています。また、順法および個人のスキルアップを目的とした資格取得や講習の受講を支援・推奨しています。さらに、事業場内で工事などを行う業者の方に対しても、環境配慮および安全配慮に関する要求事項の伝達を実施しています。

特定業務従事者教育
（刈谷事業所）

階層別環境教育
（クアーズテック長埼）

有資格者数（環境,安全衛生関係）

主な資格	人数
公害防止管理者	78
エネルギー管理者	19
環境計量士	5
特別管理産業廃棄物管理責任者	17
衛生管理者	26
作業環境測定士	8

環境活動の目標と実績

グリーンに配慮したモノづくりを進め、環境負荷を低減しています。

環境自主行動計画の概要

クアーズテック株式会社グループは、事業活動に伴う環境負荷を低減するために、環境自主行動計画を策定し活動しています。

◆2019年度環境自主行動計画と実績

取組み重点テーマ	2019 年度環境自主行動計画	実績	評価※2
地球温暖化防止	過去 5 年度間のエネルギーの使用に係る原単位（原油換算／調整 DC）について年平均 1%以上改善する	年平均 6.6%改善	◎
ゼロエミッション※1 の追求	総排出量原単位（有価物と廃棄物／DC）を 2018 年度実績以下に抑える	2018 年度比 17%改善	◎
化学物質削減	各事業場で原材料を含む化学物質の中から使用量の多いものを選定し、削減目標を個別設定する	PRTR※3 物質使用量原単位 2018 年度比 18%改善	◎
その他	環境異常の防止（レベル 3 発生ゼロの継続） レベル 3：法規制値超過	環境異常レベル 3 発生なし	○

※1　ゼロエミッションの定義　　最終処分率 ＝ 最終処分量／ 総排出量×100 ≦ 1 以下

※2　◎：目標を上回る成果　○：目標を達成　△：目標未達

※3　PRTR制度（化学物質排出移動量届出制度）とは、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業場の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組み。

◆2020年度環境自主行動計画と中長期計画

取組み重点テーマ	2020 年度環境自主行動計画	環境自主行動　中長期計画
地球温暖化防止	・過去 5 年度間のエネルギーの使用に係る原単位（原油換算／調整 DC）について年平均 1%以上改善する	**（中長期計画）** CO_2 排出量（総量）を、2005 年度を基準として、2020 年度に 3.8%以上削減する。
資源の有効活用	・最終処分率の削減 ・総排出量原単位（有価物と廃棄物／DC）を 2019 年度実績以下に抑える	**（中長期計画）** 最終処分率（最終処分量／総排出量）を、2020 年度に 2%以下とする。
化学物質削減	・各事業場で原材料を含む化学物質の中から使用量の多いものを選定し、使用量原単位の削減目標を個別設定する	―
その他	・環境異常の防止（レベル 3 発生ゼロの継続）	―

環境会計

クアーズテック株式会社グループは、環境保全に関するコストを把握し、企業活動に活用しています。

◆環境保全コスト　　単位：百万円

分野	内容	投資額※1	費用額※2
Ⅰ　事業エリア内コスト		146.6	604.9
Ⅰ - i 公害防止コスト	大気、水質、土壌、悪臭などの汚染防止など	83.5	365.8
Ⅰ - ii 地球環境保全コスト	地球温暖化防止、オゾン層破壊防止など	63.1	71.4
Ⅰ - iii 資源循環コスト	資源の効率的利用、廃棄物のリサイクルなど	0	167.7
Ⅱ　上下流コスト	グリーン調達、製品などの回収・リサイクル化など	0	0
Ⅲ　管理活動コスト	環境負荷監視、緑化、美化など	0	26.0
Ⅳ　研究開発コスト	環境配慮型製品の開発など	0	76.8
Ⅴ　社会活動コスト	情報開示など	0	0.3
Ⅵ　環境損傷コスト	自然修復など	0	0.1
	環境保全コスト　合計	**146.6**	**708.1**

対象期間：2019年1月から2019年12月まで　　対象：5事業場

※1 投資額：減価償却資産への投資額のうち、環境保全を目的とした支出を計上しています。

※2 費用額：設備の減価償却と、環境保全を目的とした支出とを合わせて計上しています（人件費含む）。

◆環境保全効果

エネルギー量、用水量、廃棄物量および金額の減少は、各種改善施策および生産量減少の影響によるものです。

実質効果　項目	2018 年度比　環境負荷量	金額
エネルギー量	38 千GJ減	214.2 百万円減
用水量	108 千 m^3 減	2.1 百万円減
廃棄物量	1,762 t　減	16.9 百万円減

環境負荷の状況

事業活動に伴う環境負荷データを継続的に収集・分析し、環境負荷低減活動に取組んでいます。

INPUT

エネルギー投入量			主要原材料※1		
購入電力	1,492,424	GJ	シリカ	3,470	t
LPG	55,953	GJ	アルミナ	338	t
A 重油	39,756	GJ	カーボン	382	t
灯油	10,057	GJ	炭化ケイ素	331	t
都市ガス	7,577	GJ	コールタール、タールピッチ	322	t
軽油	232	GJ	シリコン	263	t
ガソリン	350	GJ	ジルコニア	207	t
蒸気	39	GJ			
–	–	-	主要原料ガス※1		
総エネルギー投入量	1,606,388	GJ	四塩化ケイ素	1,353	t
水資源投入量			PRTR 法該当物質取扱量		
上水、工業用水	240	万 m^3	ふっ化水素及びその水溶性塩	286	t
地下水	35	万 m^3	上記以外	15	t

製品 → お客様

OUTPUT

大気環境への排出			廃棄物排出		
窒素酸化物	7	t	廃棄物総排出量	6,810	t
硫黄酸化物	1	t	最終処分量	3,173	t
PRTR 法該当物質排出量（大気）	2	t	PRTR 法該当物質移動量	4	t
温室効果ガス			**水環境への排出**		
CO_2 排出量（直接排出）	5	千 t-CO_2	BOD※2＋COD※3	15	t
CO_2 排出量（間接排出）	75	千 t-CO_2	SS※4	37	t
輸送にともなう CO_2 排出量	1	千 t-CO_2	排水量	411	万 m^3

対象期間：2019年1月から2019年12月まで　　対象：5事業場

※1　主要原材料および主要原料ガスは、年間100 t以上使用しているものを記載しています。

※2　BOD　生物化学的酸素要求量

※3　COD　化学的酸素要求量

※4　SS　浮遊物質量

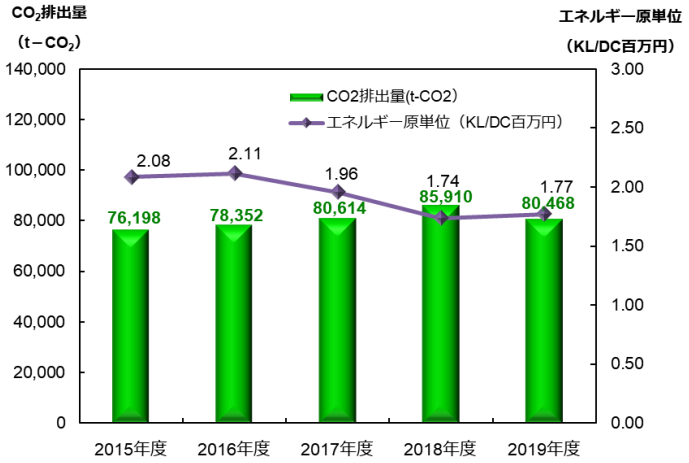
地球温暖化防止

地球温暖化防止に向けたCO_2排出削減の取組みを推進しています。

CO_2排出削減

クアーズテック株式会社グループでは、生産性向上や各種省エネ施策よりCO_2削減に取り組んでいます。
2019年度は、CO_2排出量は前年度比6.3%減少となりました。また、省エネ活動の推進により過去5年度間のエネルギーの使用に係る原単位（原油換算／調整DC）は年平均6.6%改善しました。

◆CO_2排出量とエネルギー原単位の推移



CO_2排出削減のための取組み事例

◆CO_2排出削減のための取組み事例（抜粋）

改善事例名	実施事業場	改善内容（2019 年設備投資分の効果）	CO_2 削減量
事例 1 電力使用量削減	小国事業所	空調機、冷凍機、コンプレッサー、トランス等の省エネ型への更新や、水銀灯の無電極ランプ、LED への変更により電力使用量を約 39,000 kWh／年削減しました。	20.2 t - CO_2
事例 2 電力使用量削減	秦野事業所	空調機を省エネ型に更新したにより電力使用量を約 32,000 kWh／年削減しました。	17.0 t - CO_2
事例 3 電力使用量削減	刈谷事業所	空調機やトランス等を省エネ型に更新したことにより電力使用量を約 3,000 kWh／年削減しました。	1.6 t - CO_2
事例 4 電力使用量削減	クアーズテック徳山㈱	空調機やトランス等を省エネ型に更新したことにより電力使用量を約 174,000 kWh／年削減しました。	87.0 t - CO_2
事例 5 電力使用量削減	クアーズテック長崎㈱	空調機、チラー等を省エネ型に更新したことにより電力使用量を約 267,000 kWh／年削減しました。	127.4 t - CO_2

事例 1
（小国事業所）

事例 2
（秦野事業所）

事例 5
（クアーズテック長崎）

廃棄物管理

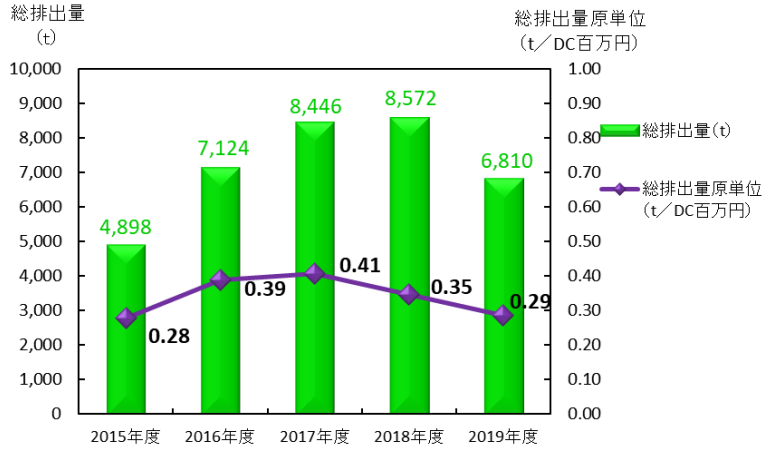
廃棄物の3Rをキーワードに、循環型社会の構築に貢献するゼロエミッション活動を展開しています。

ゼロエミッションに向けた取組み

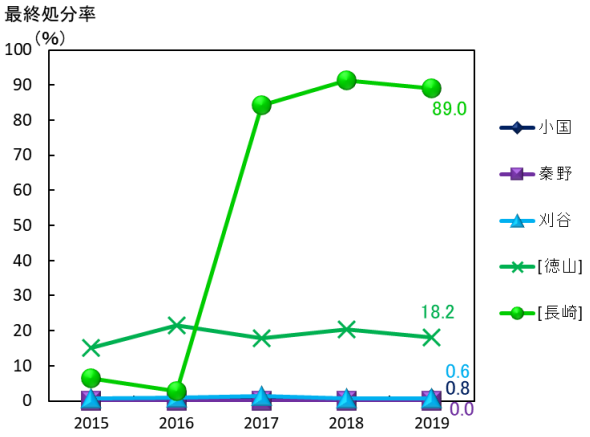
各事業場では、リサイクルセンターを設置し、廃棄物を適正管理するとともに、廃棄物の3R：Reduce（発生抑制）、Reuse（再使用）、Recycle（再資源化）をキーワードとして、製造歩留向上による不良の発生や材料ロスの極小化、汚泥や製品屑のリサイクル先の開拓などを進め、循環型社会の構築に貢献するゼロエミッション活動を展開しています。

2019年度の総排出量原単位は、前年度と比べて17%改善しました。また、秦野事業所、小国事業所、刈谷事業所はゼロエミッションを達成しています。

◆総排出量と総排出量原単位の推移



◆各事業所の最終処分率



ゼロエミッションのための取組み事例

◆ゼロエミッションのための取組み事例

事例名	実施事業場	内容
排水処理汚泥の削減	秦野事業所	排水処理剤（凝集剤）を排水量と水質に適した量に変更し、排水処理汚泥を削減した。（2019 年の削減実績：8.5t）

化学物質管理

「一滴管理※1」で化学物質管理の強化を図っています。

化学物質管理への取組み

クアーズテック株式会社グループでは、グリーン調達を進めており、欧州のRoHS指令※2やREACH規則※3についても対応しています。また、人の健康や安全面、汚染の予防や環境負荷の低減などを考慮し、PRTR法該当物質、毒劇物法該当物質などを化学物質管理の対象にしています。化学物質の管理は、「一滴管理」を強化するとともに、使用量、排出量、移動量のデータ管理を徹底しています。

※1　一滴管理：油や薬品などの化学物質について、一滴の漏洩も見逃すことがないよう、受け皿や防液堤を常に乾燥させるなど、漏洩が発見しやすい構造にし、日常の整理整頓、清掃を徹底し、日常点検で確認すること。
※2　RoHS(Restriction of the use of certain Hazardous Substances)指令 ：電気・電子機器に含まれる特定化学物質の使用制限に関する欧州の指令。対象物質は、鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、特定臭素系難燃剤(PBB、PBDE)およびフタル酸エステル類(4 物質)の計 10 物質。
※3　REACH(Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals)規則：化学品の登録・評価・認可および制限に関する欧州の規則。

PRTR（化学物質排出移動量届出制度）対象物質の状況

クアーズテック株式会社グループで取り扱うPRTR対象物質は、主に、洗浄に用いるふっ化水素酸です。ふっ化水素酸は原料の生産量減少により取扱量が減少しました。

◆2019年度PRTR対象物質の状況　　単位：　t

政令番号	化学物質名	取扱量	排出量	大気放散	水質排出	土壌排出	事業所内埋立処分	移動量	下水道排出	廃棄物排出
71	塩化第二鉄	4.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
302	ナフタレン	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
349	フェノール	2.7	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
374	ふっ化水素及びその水溶性塩	286.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0
405	ほう素化合物	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	合計	301.5	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	0.1

PCB（ポリ塩化ビフェニル）保管状況

現在保管中および使用中のPCB含有機器について、政令で定められた期間内に処理事業者にて処理が完了するまで、環境汚染が発生しないよう、厳重に管理しています。

◆PCB 含有機器の保管・使用数量（2019 年 12 月 31 日現在）

PCB 含有機器の種類	合計
トランス（低濃度 PCB,絶縁紙を含む）	31 台
コンデンサ（低濃度 PCB）	17 台
安定器	230 台
その他（低濃度 PCB）	5 個
その他（廃液、ウエスなど）	24kg

大気汚染・悪臭防止対策

排ガス処理装置の導入および燃料の転換などにより、大気汚染防止および悪臭防止対策をしています。
また、排ガスの自主基準値を設け、環境負荷低減に努めています。

水質汚濁防止

各事業場では、工程で使用する原料や研磨剤、化学物質などの資源の適正利用により、排水処理装置の負荷軽減を行うとともに、自主基準値を設け、水質の監視強化を進めています。
また、各事業場では、事故が起きた場合でも迅速に対応できるように緊急対応訓練を実施しています。
クアーズテック長崎では運送業者と合同で車輌の燃料漏洩を想定した緊急対応訓練を行いました。

環境警報システム（集中制御）導入
（秦野事業所）

緊急対応訓練状況
（刈谷事業所）

緊急対応訓練状況
（クアーズテック長崎）

グリーン調達

環境に調和した製品作りのため、環境負荷の小さい製品、部品、材料、原料の調達（グリーン調達）を推進します。

グリーン調達

クアーズテック株式会社グループは、環境配慮型製品を創出するため「グリーン調達ガイドライン」を制定し、有害物レス化および安全性の高い物質や環境負荷の小さい物質への代替など、安全衛生や環境に配慮した原料、部材、資材を優先的に購入するグリーン調達を進めており、欧州の RoHS 指令や REACH 規則についても対応しています。また、グリーン調達連絡会を実施し、関係部門において最新情報の意見交換や課題の解決を図っています。

クアーズテック株式会社グループ購買基本方針

- **全世界最適調達**
  国内外を問わず「品質、価格、納期」に最も優れたサプライヤーと公正、公平な競争原理に基づく取引をします。
- **信頼関係の構築**
  信頼関係に基づいた相互の利益を創造します。取引によって知り得た機密事項は外部に開示いたしません。
- **順法の原則**
  あらゆる取引において、法の順守を基本行動と位置づけています。
- **グリーン調達**
  環境に配慮のあるものを優先した調達活動を行います。
- **鉱物問題への取組み**
  コンゴ民主共和国とその周辺国の非人道行為を行う武装集団の資金源となる紛争鉱物やそれから派生する金属を使用した材料、製品などを購入しないことを購買方針としています。お取引先様におかれましても、材料などの調達先の透明性確保をお願いいたします。

環境への取組みの歴史

クアーズテック株式会社グループは、創業から、事業活動を行う上で社会や環境との共生を大切にしてきました。さらに、環境経営の基盤を強化し、サステイナブル経営※の確立を目指します。

※サステイナブル経営：経済、社会、環境における企業責任を果たし、人間尊重の立場に立ち、持続可能な社会の実現に貢献すること。

クアーズテック株式会社グループの沿革	主な環境保全活動および社会からの評価	主な環境保全関係の設備改善
1918 刈谷事業所は、東洋耐火煉瓦㈱の商号で創立（後の東海炉材㈱）		
1928 小国事業所は、電気金融㈱の商号で創立（後の日本電興(株)）		
	1951 エネルギー管理の優良工場表彰（熱部門）局長賞を受賞（小国事業所）	1954 山形県小国町に赤芝発電所（水力）完成（小国事業所）
1956 川棚工場（現クアーズテック長崎㈱）設立		
1958 日本電興㈱を東芝電興㈱に商号変更		
1959 東海炉材㈱を東芝炉材㈱に商号変更		
1961 秦野事業所を設立		
1968 東芝電興㈱と東芝炉材㈱とが合併し、東芝セラミックス㈱（現クアーズテック㈱）として発足		
1971 研究所（現技術開発センター）完成		
	1974 エネルギー管理優良工場表彰（熱部門）長官賞受賞（小国事業所）	
	1978 エネルギー管理優良工場表彰（熱部門）通商産業大臣賞受賞（小国事業所）	
1982 徳山セラミックス㈱（現クアーズテック徳山㈱）を設立		
1984 東海セラミックス㈱を設立	1984 全国省エネルギー事例発表会にて省エネルギーセンター会長賞を受賞（刈谷事業所）	1985 廃熱利用無散水消雪装置を導入開始（小国事業所）
		1990 第二赤芝発電所（水力）完成（小国事業所）
1991 大口径シリコンウェーハ量産のため新潟東芝セラミックス㈱を設立	1991 全社で塩素系有機溶剤を全廃	
	1997 鉛無添加カーボンブラシ製造開始（小国事業所）	
	1998 緑化優良工場「東北通産局長表彰」受賞（小国事業所）	1998 最終放流口に緊急自動遮断ゲート導入（小国事業所）
	1999 愛知県工場環境緑化コンクール入賞（刈谷事業所）	1999 敷地境界に防音壁を設置（秦野事業所）
	1999「発泡セラミックス」エコマーク認定取得（現クアーズテック長崎㈱）	
	2000 グリーン調達ガイドライン制定、グリーン調達取引先調査の開始	2000 国内全製造拠点で焼却炉撤去完了
		2001 臭気、VOC 対策のため、蓄熱燃焼式排ガス処理装置を設置（刈谷事業所）
		2004 全りん全窒素測定装置を設置（刈谷事業所）
		2004 最終放流口に集中監視システム導入完了（小国事業所、秦野事業所、刈谷事業所）
		2004 SOx 低減のため、焼成炉の燃料を重油から灯油に転換（現クアーズテック長崎㈱）

クアーズテック株式会社グループの沿革	主な環境保全活動および社会からの評価	主な環境保全関係の設備改善
	2005 エネルギー管理優良工場表彰（熱部門） 経済産業大臣表彰受賞（小国事業所）	2005 AC 第一・第二・第三工場焼成炉用触媒燃焼式脱臭装置導入（刈谷事業所） 2005 CO_2 低減のため、焼成炉の燃料を灯油から LPG に転換（現クアーズテック長崎㈱）
2006 東芝セラミックス㈱の株式の公開買付けを行う特別会社としてエスアイシーインベストベント㈱を設立 東芝セラミックス㈱の公開買い付けにより同社を子会社化	2006 土壌・地下水汚染に係る住民説明会開催（刈谷事業所） 2006 敷地内の土壌・地下水対策工事完了（刈谷事業所）	2006 CO_2 低減のため、ボイラーの燃料を重油から都市ガスに転換（秦野事業所）
2007 株式交換により東芝セラミックス㈱を完全子会社化 コバレントマテリアル㈱に商号変更 東芝セラミックス㈱と合併しコバレントマテリアル㈱として発足	2007「ゼロエミッション」達成　（秦野事業所） 2007 汚染土壌の浄化処理開始　（刈谷事業所）	2007 焼成炉用触媒燃焼式脱臭装置　導入（刈谷事業所）
	2008 廃棄物などの発生抑制・再使用・再生利用活動推進功労により、湘南地域県政総合センター所長表彰受賞（秦野事業所）	2008 特高変電所導入による重油使用廃止（刈谷事業所） 2008 CO_2 低減のためトンネル焼成炉の燃料を灯油から LPG に転換（現クアーズテック長崎㈱） 2008 事業構造のシフト、エネルギー転換による大気指定工場の解除（刈谷事業所） 2008 新変電所運転開始（高効率のトップランナー変圧機器導入）（小国事業所）
	2009 PCB 汚染土壌　無害化処理完了（刈谷事業所）	
2010 赤芝発電所を㈱F-Power へ譲渡		
2012 シリコンウェーハ事業を Sino-American Silicon Products 社へ譲渡	2012 産業廃棄物管理票の電子化（電子マニフェスト運用開始）（秦野事業所）	
2013 東海セラミックス㈱をカルデリス㈱へ株式譲渡 コバレント販売㈱をヒビノ㈱へ株式譲渡	2013 山形エコスマイルコンテスト参加。準グランプリ 1 名、特別賞 3 名（小国事業所） 2013 PCB 機器全量を処理委託先に搬出完了（現クアーズテック徳山㈱）	
2014 CoorsTek，Inc. による コバレントマテリアル株式取得	2014 PCB 機器全量を処理委託先に搬出完了（現クアーズテック長崎㈱） 2014 2013 年度　ゼロエミッション達成（初）（小国事業所）	
2015 クアーズテック㈱に社名変更	2015 産業廃棄物電子マニフェスト運用開始（小国事業所） 2015 PCB 機器 195 台、汚染物 13.8t を委託先で無害化処理（小国事業所、秦野事業所、刈谷事業所） 2015 刈谷市より環境に配慮した取り組みを評価され“かりや eco 事業所”に認定される（刈谷事業所）	2015 排水処理施設 3 施設を 1 施設に集約（小国事業所）
		2017 焼成炉用触媒燃焼式脱臭装置の導入（刈谷事業所）
	2019　産業廃棄物電子マニフェスト運用開始（刈谷事業所、クアーズテック長崎㈱）	

Health, and Safety Report

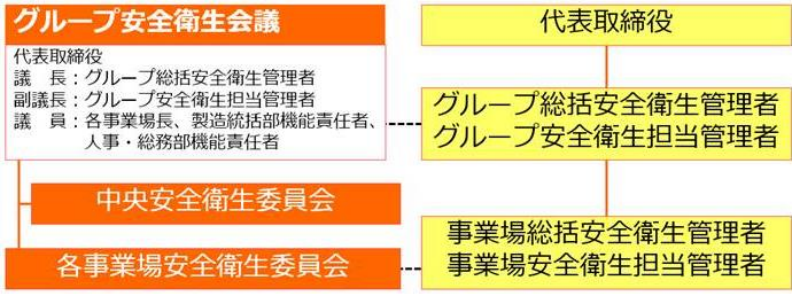
安全衛生報告

安全衛生管理体制

安全衛生管理体制

クアーズテック株式会社グループでは、「グループ安全衛生会議」を安全衛生管理に関する最高の審議・決定機関とした一元的な管理運営体制を構築しています。
また、労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針（厚生労働省）に則り、リスクの低減活動を進めています。

◆労働安全衛生管理体制図（体系図）

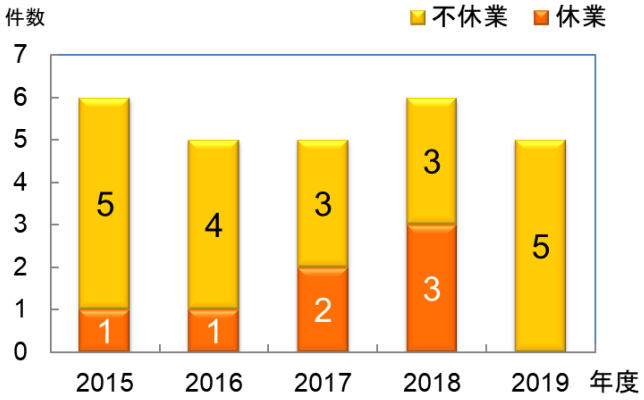


労働災害発生状況

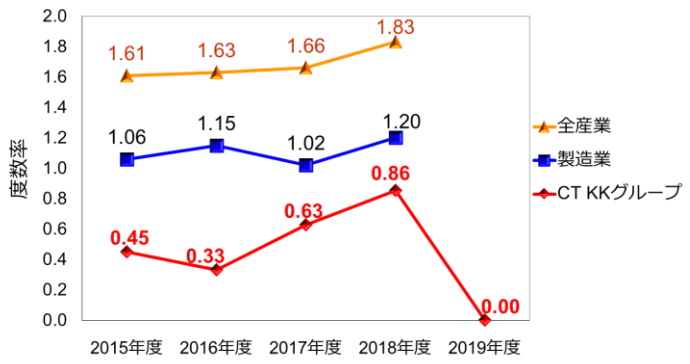
労働災害発生状況

2019 年度のクアーズテック株式会社グループにおける労働災害は、不休業災害 5 件、休業災害 0 件の合計 5 件となりました。過去 5 年の労働災害件数の推移はほぼ横ばいですが、2019 年度は休業災害がありませんでした。引き続き、労働災害ゼロに向けて、機械の保護装置・安全装置の整備やリスクレベルの改善、Foresight 4 Safety、指差呼称の定着、リスクの低減などの取組みを進めてまいります。
2019 年度は秦野事業所、クアーズテック徳山の 2 事業場が労働災害 0 件を達成しています。

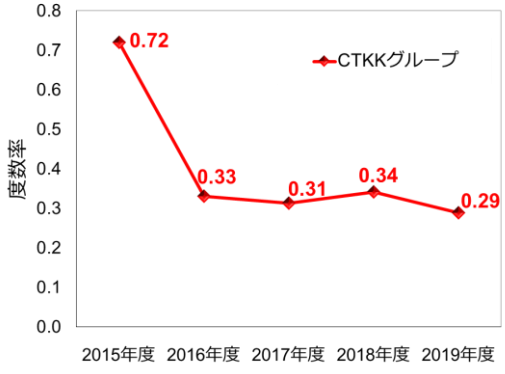
◆クアーズテック株式会社グループの労働災害発生状況



◆度数率※1



◆20 万時間当たりの度数率※2



（備考）クアーズテック株式会社グループ以外の数値は、厚生労働省労働災害統計による。

※1　度数率：延べ労働時間数 100 万時間当たりの災害（休業 1 日以上および身体の一部または機能を失うもの）発生数。
ただし、休業 1 日以上および身体の一部又は機能を失う労働災害による死傷者数に限定して算出。

※2　20 万時間当たりの度数率：延べ労働時間数 20 万時間当たりの全労働災害発生数。

安全衛生活動の目標と実績

労働安全衛生目標

クアーズテック株式会社グループは、人の生命を最優先とし、職場の安全確保と従業員および関係者の健康を大切にするために、安全衛生活動基本方針を定め、安全で快適な職場環境を維持し、労働災害および職業性疾病の防止に努め、また、自らの健康づくりを推進しています。

◆2019 年度　重点事項の実績

2019 年度　重点事項	目標	実績	評価※3
1．業務上災害ゼロに向けた取組み	（1）危険予知と指差し呼称の定着	計画どおり実施	○
	（2）リスク低減の推進 ・リスクレベル※1 Ⅱ,Ⅲの 5%以上改善 ・Ergonomics 評価A,B※2 の 5%以上改善	レベルⅡ,Ⅲ：9.3%改善 Ergonomics：10.9%改善	◎
	(3) クアーズテックグローバルスタンダードの導入と 安全衛生ガイドラインをベースにした安全レベルの向上	計画どおり実施	○
2．心身の健康維持増進	（1）健康診断結果の改善の啓蒙推進	産業医、労働衛生コンサルタントによる教育	○
	（2）メンタルヘルスの環境の改善・向上	計画どおり実施	○

※1 リスクレベルⅡ：計画的に低減対策を要するリスク、Ⅲ：優先的に低減対策を要するリスク
※2 Ergonomics評価A：大きなストレスを感じる作業、B：中程度のストレスを感じる作業
※3 ◎：目標を上回る成果、○：目標を達成、△：目標未達

◆2020 年度　重点事項

1．業務上災害ゼロに向けた取組み （1）危険予知と指差し呼称の定着 （2）リスク低減の推進 （3）クアーズテックグローバルスタンダードの導入と安全衛生ガイドラインをベースにした安全レベルの向上	2．心身の健康維持増進 （1）健康診断結果の改善の啓蒙推進 （2）メンタルヘルスの環境の改善・向上

安全衛生活動

安全衛生意識の高揚

各事業場では、全国安全週間、全国労働衛生週間に合わせ、関係会社や協力会社を含めた全員集会や安全大会により安全衛生講話や表彰などを行い、安全衛生意識の高揚を図っています。
また、2019 年度は、工場での来訪者向けに家族参加型の安全啓蒙ビデオを各工場毎に作成しました。

全国安全週間行事での表彰
（小国事業所）

モニターを活用した朝礼での安全衛生情報の共有（刈谷事業所）

全国安全週間での啓蒙活動
（クアーズテック長崎）

家族参加型の安全啓蒙ビデオ
（左から、小国事業所、秦野事業所、刈谷事業所、クアーズテック徳山、クアーズテック長崎）

安全衛生教育・訓練

安全衛生に関わる各種教育を年間安全衛生教育・訓練計画に基づき実施し、従業員の安全確保と安全衛生意識の高揚に取組んでいます。

Foresight 4 Safety 教育
（刈谷事業所）

新入社員教育
（クアーズテック長崎）

低圧電気特別教育
（クアーズテック長崎）

（安全体感教育）

クアーズテック株式会社グループでは、労働災害を無くすために従業員一人ひとりのリスクに対する感度を上げることが重要であると考え、作業中に潜むリスクについて身を持って体感できる安全体感教育を行っています。

フォークリフト速度体感教育
（秦野事業所）

危険体感・危険予知訓練
（刈谷事業所）

危険体感教育
（クアーズテック長崎）

リスク低減活動

（ロックアウト・タグアウト・トライアウトの徹底）

ロックアウト・タグアウト・トライアウト※は、機械や装置の点検、清掃、メンテナンスなどを行う従業員を機械の誤動作や誤操作による危険から守る手段として重要な手順です。全事業場でロックアウト・タグアウト・トライアウトのトレーニングを重点的に実施しています。

※ロックアウト：機械や装置に供給されるエネルギー（動力）源を遮断し、起動装置に鍵を掛け、他人による機械の操作をさせないようにすること。
タグアウト：機械のエネルギー源の遮断中に、遮断した機械や装置の操作を禁止することを札（タグ）によって明示すること。
トライアウト：機械設備が動かないことを、残留エネルギーの確認と起動スイッチを入れて確認する(試す）こと。

機械のブレーカーにロックアウト、
タグアウトしている例

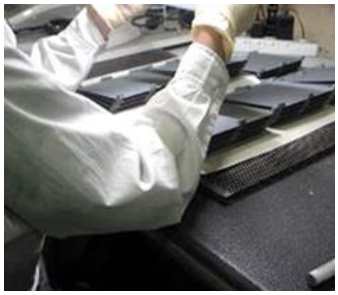
ロックアウトステーション

（エルゴノミクス改善）

クアーズテックグループでは、エルゴノミクスの評価結果に基づいて計画的な改善に取り組んでいます。

20kg 袋の持ち運びを手作業からテーブルリフトとローラーコンベアーに改善
（秦野事業所）

パワースーツを着用し、腰の負担を軽減
（秦野事業所）



クッションマットを設置し、肘への負担軽減
（刈谷事業所）

従業員の健康

（身体の管理）

クアーズテック株式会社グループでは、従業員が健康に働ける職場づくりを目指し、各種健康診断を実施し、その診断結果を基にした健康管理、健康全般に関する相談の機会を設けています。また、過重労働による健康障害防止対策として、従業員への産業医などによる面談や、従業員からの希望による面談にも随時対応し、一人ひとりの健康問題に対処しています。

（メンタルヘルス）

メンタルヘルスについては、予防の視点から、心の初期不調者への気づき、見落としの撲滅に向けて、管理者を対象とした研修を行うとともに、従業員自らが心の変化に気づくためのメンタルヘルス教育などを実施しています。また、カウンセラーの設置や、メンタルヘルス不調により休業した従業員が円滑に職場復帰できるよう、「職場復帰支援プログラム」を策定するなどにより、従業員に対するケアを行っています。

メンタルヘルス教育
（小国事業所）

衛生・メンタルヘルス教育
（秦野事業所）

メンタルヘルス教育
（クアーズテック徳山）

（健康増進）

クアーズテック株式会社グループでは、従業員の健康増進を目的に、様々な運動やレクリエーション活動を行っています。

奉納相撲大会
（小国事業所）

家族参加のソフトボール大会
（クアーズテック徳山）

労使共済ミニバレー大会
（クアーズテック長崎）

地域との関わり

地域社会への責任

社会から信頼される企業を目指し、地域貢献活動を進めています

災害への備え

■防災活動

火災や大地震が発生した場合に備えて、迅速かつ適切な緊急対応により被害を最小限に食い止めることを目的に、消防署の協力を得て、定期的に防災訓練を行っています。

救助訓練
（秦野事業所）

放水訓練
（左:刈谷事業所、右:クアーズテック徳山）

救護訓練
（クアーズテック長崎）

地域社会との協調

クアーズテック株式会社グループは、社会貢献活動を通じて、地域社会との連帯と協調を図り、地域社会の一員としての責任を果たすとともに、コミュニケーションの機会拡大に努めています。
また、クアーズテック株式会社では、従業員のボランティア活動を支援するため、未取得により失効する年次有給休暇を積み立てて、社会貢献活動などのための休暇に充当できる「ワイドプラン休暇制度」を設けています。

クアーズテック株式会社グループ行動基準より（抜粋）

社会とのかかわり

地域社会との連帯と協調を図り良好な関係を維持することにより、地域社会の一員としての責任を果たします。

地域貢献活動

■サイエンス講座と職場体験実習

従業員の家族や未来を担う学生の方々を積極的に受け入れ、工場見学や実際の業務を体験する職場体験実習を実施しています。また、小国事業所では子供の健全育成を目的に小国町とパートナーシップを結んでいます。2019 年は小国小学校 4 年生～6 年生までを対象にクアーズテック従業員とボランティアスタッフとして小国地区の高校生が協力してサイエンス講座を実施しました。

小学生へのサイエンス講座
（小国事業所）

高校生の工場見学
（クアーズテック長崎）

■ボランティア活動

より良い地域社会の実現に向けて、地域と一体となった活動に取り組んでいます。各事業場では、地域の美化を目的とした定期的な事業場周辺の清掃や献血、交通安全誘導活動などを実施しています。

秦野市の清掃活動に参加
（秦野事業所）

周南工業用水道事務所主催「清流錦川一斉清掃大作戦」に参加
（クアーズテック徳山）

地域の地域美化活動
（クアーズテック長崎）

クアーズテック株式会社 2020 年 4 月発行

■ 人事・総務部
〒141-0032
東京都品川区大崎二丁目 11 番 1 号（大崎ウィズタワー）
Tel：03-5437-8411（代表）　　Fax：03-5437-7172

■ 安全衛生・環境担当
〒257-8566　神奈川県秦野市曽屋 30 番地
Tel：0463-84-6603　　Fax：0463-84-6608
URL　：　http://www.coorstek.co.jp/

本報告書の内容や当社の安全衛生･環境活動へのご意見、ご質問などございましたら、上記までお問い合わせください。